

9/11 町から消防団へ積載車と小型動力ポンプ引き渡し
町民の安心安全を守って



▲代表して謝辞を述べる横尾剛第5分団長

町は消防団への消防積載車と小型動力ポンプの引き渡し式を行いました。

町民の安心安全な生活を守るため、消防団の火災予防活動や消防力の強化を目的として行っているもので、本年度は、消防積載車と小型動力ポンプをそれぞれ2台ずつ更新しました。

本年度更新された分団は次のとおりです。

【消防積載車】

第5分団（梅田、駅通（大字梅田））

第9分団（上沖洲）

【小型動力ポンプ】

第4分団（西荒神、東荒神、大明神）

第13分団（向野、赤崎、高田、鷺巣、古城、向野北）

9/17 こころひとつに
六栄保育所 運動会



▲年長児、未来のオリンピック選手

六栄保育所では、運動会を開催しました。

熊本地震からの復興を祈願して、準備体操には、「くまモン体操」を取り入れ、「ながすまちをくまもとをげんきに！がんばろう！」という子どもたちの元気な掛け声とともにスタート。

オープニングでは、「One for all.all for one」をテーマに年長児、年中児、年少児が心をひとつにしてマーチングを披露しました。

0歳児から年長児まで遊戯やかけっこ、親子競技にとたのしい秋のひとつきを過ごしました。

9/8 町が崇城大学と包括連携協定を締結
連携して魅力ある町に！！



▲協定を結び握手する中逸町長（左）と中山学長

町は崇城大学と人材育成や研究開発で協力する包括連携協定を町役場で締結しました。

これは、同大学の専門的な知見を、産業振興や教育分野で活用し、起業家育成支援や、小中学校の英語教育、芸術・文化などの分野で連携するもので、今後、地方創生のさらなる推進に向けて取り組んでいきます。

調印式で中逸町長は「多くの分野で相互に連携して魅力あるまちづくりにつなげたい」と話し、中山学長は「ものづくり企業が集積する長洲町との協定で、研究分野のさらなる向上につながると期待している」と話しました。

9/17 英語でしゃべらないと オン・有明フェリー
船上で英会話を楽しく学ぼう



▲英会話でゲームを楽しむ子どもたち

長洲町国際交流友の会（徳田美津子会長）は、有明フェリー船上で英語を楽しむ「英語でしゃべらないと オン・有明フェリー」を開催しました。

このイベントは有明海自動車航送船組合の協力で行われ今回で10回目となります。

この日は、小中学生約50人が参加。町のALTの指導のもと音楽やゲームなどを使って英会話を楽しみました。初めて参加した長洲小4年木村拓也くんは「フェリーの中で英会話をして楽しかった。英語が好きになりました。来年も参加したい」と笑顔で話しました。

8/21 みんなの川と海づくりリーダー
長洲町の海岸をキレイに！



▲早朝より海岸の清掃をする参加者

町のきれいな川と海を守っていくために、毎年行っている「みんなの川と海づくりリーダー」。ことしも長洲港海岸と西塘海岸で清掃を行いました。

この日は早朝からの作業にもかかわらず、北部漁業協同組合や長洲中学校の生徒をはじめ、町民約350人が参加。漂着したペットボトル、空きビン、缶、ビニール袋など、570キログラムものごみを回収しました。

中逸町長は「みなさんの協力のおかげで、年々海岸がきれいになっています。今後も、町の花がさらにきれいになるよう、ご協力をお願いします」と話しました。

9/7 磯町区 やさしいお薬講座
健康増進し、明るい区に



▲講座の様子

磯町区（木下信博区長）では介護予防拠点施設「磯の館」でやさしいお薬講座を開催しました。これは、元気はつらつ地域学習講座（自治公民館講座）を活用し、薬に対する知識を得ることによって、区民の教養の向上、健康を増進し、明るい区にしていきたいとの思いから初めて行われたものです。

この日は20人の区民が参加。薬剤師の隈部郁代子さん（腹赤新町区）から、薬の飲み方など医療品と上手に付き合っていくためのノウハウを勉強しました。

参加者は、「お薬は正しい飲み方をしないと危険だなと感じました。お薬手帳は必ず薬局に持っています」と笑顔で話しました。

8/13・14 第66回仙酔峡旗争奪柔道大会
長洲柔道塾の選手奮戦



▲入賞した選手

第66回仙酔峡旗争奪柔道大会が阿蘇中学校体育館（阿蘇市）で開催されました。大会は、個人戦と団体戦が行われ熱戦が繰り広げられました。

長洲柔道塾からの町内入賞者は以下のとおりです。（敬称略）

【優勝】	小学4年女子の部	山田莉々子（鷺巣区）
	小学3年の部	金井 海広（腹赤区）
	小学2年の部	山田 昊宜（鷺巣区）
【準優勝】	中学女子の部	団体準優勝
	小学1年の部	平島 煌靖（梅田区）

8/24 「動く美術館」から大作絵画の寄贈
子どもたちに芸術に触れてほしい



▲寄贈された絵画を全校児童に紹介する児童会運営委員の吉田朱里さん（右）と藤末淳也さん（左）と高森校長（中央）

腹赤小学校（高森秀一校長）に「動く美術館」の川島博館長から本町では4点目となる絵画が寄贈されました。

「動く美術館」は、地域の皆さんや子どもたちに本物の芸術に触れる機会を提供する目的で行われ、41年の歴史を誇る活動となっています。

絵画を受け取った高森校長は「子どもたちの成長の様子がよく伝わってくる絵画です。楽しい雰囲気の中に活気のある生活がよくわかります。校舎の玄関に飾って、いつまでも大事にしたいです」と話しました。